

根木内歴史公園:湿地の観察会報告(2011/9/13 実施)

2011/9/27 文責：相澤

参加者：相澤、市川、西澤、山田（洋）、高橋（下田の森）、山口（千葉大）

残暑厳しい中での観察会でしたが、近所に用事があったて来ていた下田の森の高橋昌代さんや、千葉大で昆虫の研究室に所属している3年生の山口さんが新たに参加してくれました。今回も参加者のみなさんの感想などを元に報告を作成しました。

◇観察会の感想より…

日ざしはまだまだ暑いのですが植物界は秋の気配が濃くなっていました。風も秋の気持の良い涼しさでした。(山田)

今日初めて観察会に参加し、植物や虫など色々なものを見ることが出来ました。一人では見落としてしまう何かも、みんなで観察することで気づくことが出来ます。楽しい時間をありがとうございました。(山口)

久しぶりの根木内で、暑かったけれどトンボがスイスイ、もう秋の気配。イボクサをみたかったのですが、みられませんでした。草のカゲでひっそり咲いていたのかしら。(西澤)

◇観察した動植物



ボントクタデ

変な名前が付いてますが、細い花序が、優しげに垂れ下がり赤い蕾と、白っぽい花が少し付いている姿は、とても愛らしいと思ってました。今日は、ピンク色の花がきれいに並んで開いているのに出会って、ますますお気に入りになりました。(市川)

赤いつぼみとピンクの小さな花がたれている様子はかわいらしい。(西澤)

アカメガシワの実

房ごと落ちてつぼみが三つに開き中から三つの黒い実が出ていました。(山田)

キショウブ池横のソクズの辺りに落ちています。このアカメガシワは雄株と雌株が隣同士にあって、珍しいという話を良く聞きます。黒い種をとってつぶそうと力を入れると、油のようなものが出てきました。椿油のように、何かに使う習慣などあったりするのでしょうか？(相澤)



キクイモ

いつも“外来種”とくくってしまうキクイモですが、今回見た花はとてもキレイで思わず写真を撮ってしまいました。昔は根を水にさらして食用にしたと言う話をずっと聞いていたのですが、昨年の冬に西澤さんが流山でキクイモの漬物を買ってきて、観察会の時にいただくことができました。味はなかなか良かったので、根木内のものも機会があったら食べてみたいなあと思う次第です。

“外来種”と言えば、山田さんの今回の感想に「ヒレタゴボウが池のふち辺りグルッと咲いていて、きれいでした。」という話があったのですが、いつもいつも、公園にとって有用な種とは何だろう?と悩まされる思いです。(相澤)



ハンミョウの幼虫(にらむし)

地面に小さな穴がぽつぽつ開いていました。穴をじっと見ていると何かが頭のとっぺんをのぞかせては引っ込み、のぞかせては引っ込み…相澤さんが「ハンミョウの幼虫」だと教えてくれました。

相澤さんのまねをして穴に草を突っ込んでからゆっくり引き上げて、ハンミョウが捕まえられないか何度か試してみました。ハンミョウもそこまでお馬鹿さんではないのでしょうか。結局私たちが根負けして、ハンミョウの全体像を見ることが出来ませんでした。(山口)

写真右下の穴をよ〜くご覧あれ。下の写真では何か出てきてますよね。ハンミョウの幼虫だそうです、にらの葉っぱで釣ることができるために“にらむし”と呼ばれているのだそうです。にらでなくとも釣れるということですが、山口さんの感想にかかっている通り、我らは失敗に終わったのでした…(相澤)

去りゆくもの

セミの鳴き声になんかせっぱつまった感じにきこえ、ハンノキをみあげると、カマキリにつかまったセミ、それも同じ木に2か所で。アブラゼミとカマキリ、もう一か所はツクツクボウシと2匹のカマキリ。しっかり押さえつけられたセミはだんだん鳴き声も小さくなり、羽がむしられた？時点で、とうとう声もきえてしまい、、、。



夏から秋への自然界のうつろいといえ、それまでですが、なんかあわれ～なセミクン。そして生命力旺盛なカマキリのすごさ。

そういえば、カマキリとアブラムシ（ゴキブリ）は同族？との話を昆虫を研究中の大学生（山口さん）から聞いたばかり。さすがカマキリレンジャー。すごい対決を見せてもらいました。（西澤）

アキノゲシ

大きな長い葉が春先から出ており、草丈は時に 2m を越すほど高くなります。どんな花が咲くのだろうと思いつつ秋を迎えると、こんな可憐な花が咲くというギャップが大好きで、毎年かかさず観察し、私の独断と偏見で報告に載せてしまいます。ヨシ原の中で、ヨシに負けずに背を高くしてたくさんの花を咲かせている姿も前に見たことがあります。（相澤）



エノキグサ

道端などで、よく見かける雑草です。葉がエノキの葉に似ているから付いた名前だそうですが、その葉よりも、茎の近くにある小さな丸い受け皿のような葉に、特徴があると思います。そのお皿の中に、花のような、実のような物があるのは知ってましたが、今日見たら、同じ所から赤っぽい粒々の穂が立ってました。これが雄花で、お皿の中に納まっているのが雌花だそうです。今まで知らなかった姿に出会えてよかったです。（市川）

アカスジキンカメムシ 4 齢幼虫

カメムシに不快なイメージを持つ人は多いと思います。カメムシは一般に特有の臭気を持ち、刺激を与えるとその臭いを発する虫です。地方ではその臭気から「へっぴりむし」「わっくさ」「くせんこ」等と呼ばれています。まったく臭気に関係ない呼び名があるとすれば、兵庫県の「ジョンソン」くらいなものでしょう。

この幼虫は鈍い楕円形をしていて、光沢のあるこげ茶色の地に白い模様がついています。この模様が缶ジュースのプルタブや猫や何かの顔に似ていて、とてもかわいらしいと思いました。

今日見つけたアカスジキンカメムシの幼虫は幼虫のまま越冬し、翌春成虫になります。成虫は西洋の楯のような形で、緑地に赤い模様がついています。地の色はラメが入ったようにキラキラしていてとてもきれいです。この赤いスジの模様が入った「キンカメムシ」の仲間なので、「アカスジ キンカメムシ」という名前なのです。

カメムシは嫌われ者かもしれませんが、世の中にはカメムシの愛好家もたくさんいます。愛好家の間ではアカスジキンカメムシの成虫はその美しさから「歩く宝石」と呼ばれているのです。

今日見た幼虫も来年には立派な成虫になっていますように。(山口)



写真は山口さんが後日園芸学部にて捕って撮影してくれた5 齢（終礼）幼虫。

根木内歴史公園の湿地の観察会は毎月第2火曜日に行っています（雨天時は次の日に延期）。10月11日（火）の予定で、場所ごとに生育する草花をチェックする“花ごよみ調査”を行う予定です。

9:30に公園駐車場に集合で、昼まで観察を行い公園内で昼食を食べます。10月となればさすがに暑さは和らぐでしょう。多くの方の参加をお待ちしております。

お問い合わせ（千葉大・相澤）

E-mail : akihitoaizawa@gmail.com